

# 皮編

農家が獲って販売する

## 皮は肉より ハードルが低い

北海道旭川市・浅野晃彦さん

文〓編集部 写真〓湯山繁

農家16戸でつくる「わな部会」

北海道旭川市の郊外で無農薬のお米や野菜をつくる浅野晃彦さん（58歳）は、エゾシカに泣かされてきた農家の一人だ。

「ダイズはかじる、ナスに菌形はつける、田んぼは踏みあらす、ニンジン、カボチャ、ダイコン、イモ、ハクサイ……」

食べられた野菜を数えればキリがない。特に4、5年くらい前からは、よくシカを見か



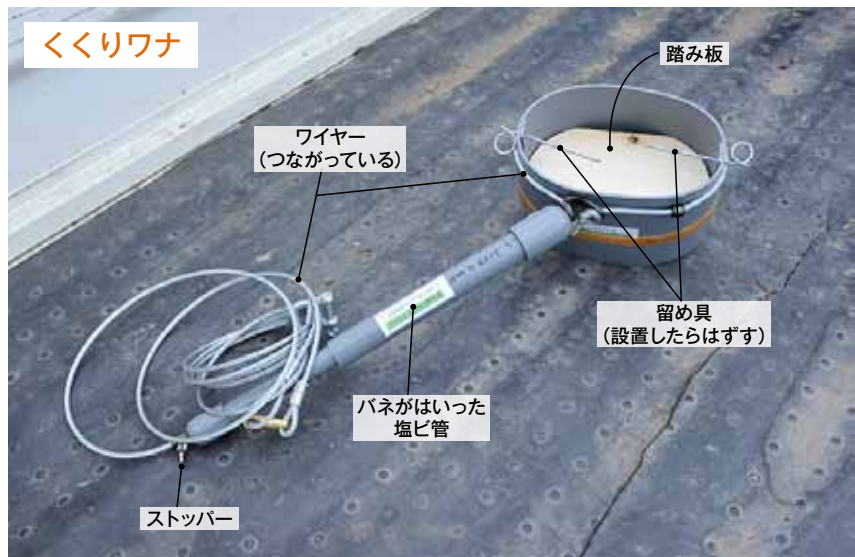
左から、岡佳弘さん、浅野晃彦さん、撫養一成さん



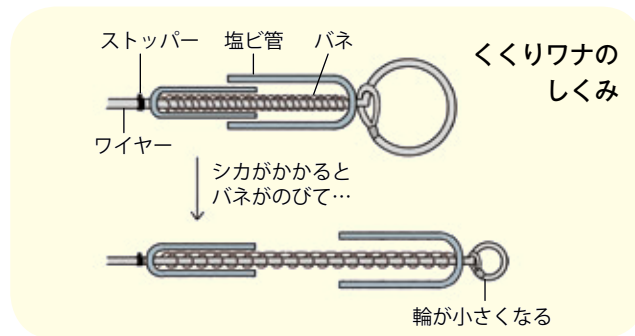
くくりワナにかかったエゾシカ（写真提供＝浅野晃彦）



浅野さんの畑の脇にある獣道に設置されたくくりワナ。土に埋め込み、シカに見えないよう上には落ち葉などをかぶせておく。山の中に設置したり、鼻のいいイノシシを狙うときは人間のおいが付かないよう手袋をつけて作業する



お弁当箱型の枠は2重構造になっている。内枠にワイヤーの輪をセットしたら、バネをぎゅーっと縮めて、ストッパーで固定。左側のワイヤーの端を木などに固定して設置する。シカが踏板を踏み、ワイヤーが枠からはずれると、一瞬でバネが伸びてワイヤーの輪が小さくなりシカの脚を捕える



**農家はシカの通り道を知っている**

わな部会では、部会員が自分の農地にワナを設置するのが基本だが、部会員でない農家に頼まれた場合は1個250円でワナの設置を請け負っている。

浅野さんの近所で果樹をつくる佐藤正市さんも、浅野さんに頼んで園内に合計17個のくくりワナを設置してもらっている。

サクランボに始まり、洋ナシ、千両ナシ、

けるようになったし、被害も増えてきた。シカの数自体が増えたとも考えられるが、浅野さんは、ちょうどその頃から周りの農家が電気柵やネットを設置し始めたことが、関係しているのではないかと思っている。うちの圃場にはネットも電気柵もないからシカが集まってきたいるんじゃないか——。

「もう、獲るしかないと思いましたよね。だってネットしても結局他の人の畑に行くだけですから」

猟友会から「農家も組織的に駆除に取り組んでほしい」と言われていたこともあり、2010年の2月、浅野さんは周りの獣害に悩む農家に声をかけ、16人でワナ猟免許を取得した。さらに自らは「捕獲から駆除までを農家でできるように」と猟銃の免許も取得。6月には北海道猟友会旭川支部に属する組織として、農家の「わな部会」を発足させた。

何かと相談に乗ってくれていたベテラン猟師の撫養一成さん（64歳）にも、顧問として参加してもらっている。